

受け入れ事業所や監理団体に聴く フィリピン人技能実習生の特徴について

Characteristics of Filipino Technical Intern Trainees Interviewed
by Host Business Establishments and Supervisory Organizations

大久保 元 正

キーワード：フィリピン人技能実習生

はじめに

筆者は大久保（2024）において、フィリピン共和国から移住労働が発生する背景事情についてごく簡単にまとめた。そこでも述べたように、世界有数の移住労働者送出国であるフィリピンからは、日本も多数の人材を受け入れている。その人材の1つのタイプが外国人技能実習生や、そこから資格を移行した特定技能者である。そこで今回、フィリピン人技能実習生や特定技能者を受け入れている事業所や監理団体からの聴き取りデータを基に、1つの資料として、彼／彼女たちの特徴を整理しておきたい。以下、特に章立てすることはせず、特徴ごとに番号を付して記していく。また、聴き取り調査の概要は以下の通りであり、愛媛県を中心とした8事業所・団体の10名の方々から話を伺うことができた。調査協力者の特定を防ぐために、聴き取り対象の呼称として調査日の順に機械的にアルファベットおよび番号を割り振っている。

所在地	聴き取り対象	調査日
愛媛	監理団体 A ①氏	2022/9/22
愛媛	自動車整備会社 B ②氏	2022/10/21
愛媛	造船会社 C ③氏・④氏	2023/3/16
愛媛	造船会社 D ⑤氏	2023/8/23
高知	監理団体 E ⑥氏	2023/8/28
愛媛	造船会社 F ⑦氏・造船会社 G ⑧氏	2023/9/19
広島	造船会社 H ⑨氏・⑩氏	2024/1/25

1. 基本属性

まず属性からまとめていく。聴き取り対象に造船会社が多く、そこでの実習生の仕事は溶接作業がほとんどということもあり、性別はほぼ男性である。学歴は高卒や専門学校卒が多い。出身地は「バラバラで、マニラの子もいれば、小さな島出身の子もいる」(B社②氏)とのことで、これは他の事業所でも共通していたが、一部、固定した地域から受け入れている聴き取り対象もあった。

性格は、「基本的に穏やかな性格の子が多い」(B社②氏)、「ほぼみな素直で明るい」(F社⑦氏・G社⑧氏)など好評価で、仕事中は「とにかく元気。挨拶の声も大きいし、気遣いもすごくあるし。それらを『日本の』若い子たちが見習うようになった」(B社②氏、[]は筆者が補ったもの、以下同じ)との賛辞も聞かれた。ただ、以下のような話も聞かれた。

ホームシックになりやすいから、[現地面接の際に] その辺、根掘り葉掘り聞いてみたり、途中で帰られても困るし。【どういう質問で?】家族と離れたことがありますかとか。うちも1回、送り出しOKを出す手前でキャンセル[されたことがある]。セブからマニラに出てきたその2日間で寂しい、帰りたい。面接の時は返事もしっかりして、「ああ、いい子や」と思って、「3年間、離れるんよ」って言ったら急に感情が出て。(G社⑧氏、【 】は筆者からの質問内容、以下同じ)

年齢は20代前半から30代後半までが多く、わずかではあるが10代や40代の受け入れ経験がある聴き取り対象者もいた。また、以下のような方針を持つ監理団体もあった。

22から30までにしたんです。実習生制度としたら18歳から60歳までOKなんですけど、18歳だと若すぎて、人のところに雇われて働いてお金をもらうっていう就労経験がない。[すると]朝起きてこないとか、そういうことになるので、働いたことある子にしてと依頼してます。で、歳が上すぎると、[フィリピンは]歳を立てる文化なんで、自分がやらなきゃいけない仕事も後輩に全部やらせるっていう感じになるから、歳上すぎるのも。(E社⑥氏)

2. 来日目的

次に来日目的を見ていく。技能実習制度の主眼は日本から発展途上国への技能移転であるが、それが建前にすぎなかったことは周知のところであり、実習生側の実際の目的は言うまでもなく出稼ぎである。そしてフィリピンの場合は、家族を養うためという意味が特に強いと言えよう。

彼らからすると、日本に来られるかどうかは死活問題なので、力強い目はしている。それから家族想い。1人日本に来れば、地元に残す兄弟、親、全員食べられるくらいの仕送りができるので、彼らも必死。(B社②氏)

【実習生への要望は？】何かしらの形でいてもらえるのであれば、ずっといて欲しい。話をしていると、「フィリピンには帰りたいけど、自分が帰るよりも、日本にいて仕送りした方が、家族は幸せなんだ」と、だからずっと日本にいたいとみんな言う。(B社②氏)

大久保(2024)でも記したように、現在のフィリピンでは、若者がみな希望する仕事に就けるとは限らない。そのことがまた、フィリピン人労働者の外国への出稼ぎに拍車をかけている。

正社員の仕事は、すごく少ないらしいです、フィリピン。なのでチャンスがあれば、日本に行きたいというのは多いみたいです。(C社③氏)

【海外に行くことに大きな抵抗はないか？】[ない]かな。フィリピンには本当チャンスがなかなかないので、仕事がね。溶接という仕事は、[フィリピンでは]やっぱりちょっと給料が少ないってことですよね。正社員ならないし、半年とか契約的な仕事です。比べても、例えばこの時給は、大体、向こうの日給ぐらいの感覚で。(C社④氏)

母国の家族は実習生たちの稼ぎを頼りとして、生活を改善したり将来への投資をしたりする。そして実習生たちは、家族に送金する金額を増やすためであれば、定時外に仕事をすることも厭わない。

やっぱり、家族にもっと送ってあげたいっていうのが強いんで。「残業する？」と言われて、断る子ほとんどおらんよね。本当に疲れがたまっているとじゃない限りは、みんな、「残業するか？」って言われたら(C社③氏)。はいって言います。(C社④氏)

バーベキューの装置にしても、溶接して組み立てたんですけど、フィリピンの子に作らしたんですよ。日曜日ぐらいにやらせるけん、何人かピックアップして、選ばれるって[休日手当がもらえるから]喜ぶますよ。(H社⑨氏)

うちの実習生たちでも、「そんなに送っても大丈夫？」というぐらい送る(C社③氏)。8万とか10万とかをね、毎月(C社④氏)。多い人やと、13万とか送るからね(C社③氏)。【それは母国に帰ったら、立派な家が建ってるとか？】家建てたとか、土地買ったって言う子が多いよね(C社③氏)。それか、きょうだいを学校に行かす学費を払っているとか(C社④氏)。

しかし当然ながら、「いかに稼げるか」が実習生の基準となっている以上、稼げない国に対する彼らの眼差しは厳しくなる。

【今後、外国人を入れないという選択肢はない？】日本を選んでくれるのかっていう心配はありますけど。いま円安で、実習生の相談にのりよったら、送るお金が減るとか、この円安のこと結

構言いますね。選ばれん国になる、そこが心配ですかね。(G 社⑧氏・F 社⑦氏)

3. 使用言語

次に使用する言語について見ていく。実習生たちは日本で働く以上、高い日本語能力を持っているに越したことはないが、実際のところはどうであろうか。

まず3か月間フィリピンで勉強する。そこで自己紹介と、簡単な日常会話くらいができる状態で日本に来る。個人差はあるが、5年前から来ている子は、日本語も普通に会話ができる。日本語検定もすごく前向きに受けている。一番長い子でいま N4 で、レベル的には N3 もいけそう。(B 社②氏)

うちも G 社さんも実習生から上がって来た子が特定技能になって、長くて経験もあって日本語も喋れるし、その子らがまた実習生を教えてっていう良い流れができています。日本語でもコミュニケーションが通じるようになっていく。何かトラブルがない限り、通訳を挟むということもそうそうない。(F 社⑦氏)

これらは、特定技能者と日本語でのコミュニケーションが可能になっている理想的な例であるが、その状態に達するまでに、実習生として来日してから5年以上という時間を要している。言い換えれば、来日して日が浅い者が、コミュニケーションツールとして日本語を用いることはどうしても難しい。そこで併用されるのがフィリピンの公用語である英語である。

【労働現場での日本語でのやりとりは片言か？】そうですね。現場レベルだと、英語だったら何とか。【フィリピンの方は、みな英語は問題なし？】英語はね。だから極端な話、Google 翻訳とか使えば、ある程度、意思疎通は。(C 社③氏)

極端なことを言えば最初の半年間はマンツーマンで指導しながら働いていたけど、日本人と接していれば向こうも日本語が上手になってくるし、僕らも片言の英語を翻訳アプリを使って。それでだんだん、コミュニケーションが取れるまで半年。(G 社⑧氏)

しかし、その頼みの綱の英語は、来日するフィリピン人が今後も必ず使えるとは限らなくなっているようだ。

【英語が分かる人と分からない人の比率はどれくらい？】分からない人がちょっと増えてきた感がある。というのも、今までは学校教育も全部英語だったのが、国語としてフィリピン語、タガログ語を推進していきましようっていう国の方針に、ドゥテルテさんの時に、その前からかな、

変わってるので、10人いたら英語が怪しい子が2、3人隠れてる感じ。(E社⑥氏)

上でも書いたように、実習生が日本語を習得するには時間が必要である。しかし実際には、時間だけでなく「日本語を話さざるを得ない」という環境も必要である。事業所によっては、その環境を整えにくくなっているという事情もある。

日本語は実習生が増えれば増えるほど下手です(笑)。【フィリピンの言葉で賄えてしまう?】そうですね、生活できちゃう。初めの頃は3人ぐらいしかうちも受け入れがなかったんです。その頃の方が日本語がまだ通じてた。(H社⑩氏)

うちは〇〇〇〇[地名]ばかり入れてる。そうすると、先輩と喋れるし、先輩が全部教えてくれるから、日本語いらないみたいな感じで、どんどん退化していく。来日時の方が日本語の能力が高い(笑)。(E社⑥氏)

したがって、実習生に日本語を習得してもらうためには、最初にした特定技能者のように、いかに「日本で長く働きたい」という想いを持ってもらえるかにかかっていると言えよう。フィリピンに帰国する、あるいは英語圏に移動するならなおさら、日本語を習得する動機は高まらないと思われる。

【出稼ぎが目的だけど、プラスアルファで日本語を身につけたいという子もいる?】うーん、そんなにいない。一生懸命、日本語勉強した子もいるけど、向こうで仕事につながらないから。そこまでのモチベーションになれない。(E社⑥氏)

4. 仕事の知識

技能実習制度では、実習を受ける仕事と同種の仕事の経験を持っていることが必要とされる。そのため、実習生たちは基本的には、(日本語の指示が分からない・聞き取れないなどの事情を別とすれば)現場に入ったらすぐに仕事に取りかかることになる。

機械の修理には、エンジンの基本とかの知識が必要だが、そういった知識は、深い・浅いはあれど、彼らはフィリピンにいる頃から持っているので、臨機応変に対応ができていて、一から教える必要はない。全く知らないことだったら、こちらから教えれば習得する。(B社②氏)

しかし、単にその仕事をしたことがあるとか、知識があるというだけでは済まない、仕事の質に関わる問題もある。それは言い換えれば、実習生がフィリピンで身に付けた仕事の質をいったん脇に置き、受け入れ事業所が要求する仕事の質を身に付ける必要があるということである。

【単に溶接ができるというだけでは、御社で必要な溶接技術かどうかは話が別ということか？】
そうです。うち○×造船さんの仕事を受けてるんですけど、その○×造船さんから文句を言われない溶接をしてほしい。なので、そのスタンダードに合わせてほしい。だからフィリピンのスタンダードを忘れてほしい。ていうのが、[実習生が] 来たばかりの時やる作業ですね。(H社⑩氏)

[フィリピンの] △□造船から実習生が来るとか、◇▽造船から来るとかで、来ても本当に汚いんですよ、溶接が、本当にあんまり良くない。でも、憶測ですけど、ここで身につけた技術を持って帰って、それが活かせるかったらそうじゃなくて、やっぱり汚くて通用するんですよ、その国では多分。でも、こっちではある程度きれいじゃないと直す時間がとてもかかるとか、検査に通らないとか、そういうことが起きて、だから、ギャップがあるのかもしれないですね。(H社⑩氏)

5. 実際に担当する仕事

上記H社の聴き取り内容からすると、仕事内容によっては（この場合は溶接）、フィリピンと日本で要求される仕事の質に大きな差があることが分かる。そして実習生の中には、その差を埋めるまでに時間がかかる者もいるだろう。しかし、その差を埋めた先では、自分の仕事に誇りややりがいを感じることもあるようだ。

実習生同士でも、溶接がきれいにできたりしたら、多分、自慢したりしてるんですよ。で、検査でもあまり書かれなかったりしたら、「自分のところはすごい、お前とかいっぱい書かれちゃうぞ」みたいな、そういう、プライドじゃないけど、あるんでしょうね。(H社⑩氏)

【技術を身に付けるにしたがって、難しい仕事を任せたり、1人でやらせたりするのだろうが、実習生はそのことにやりがいを覚える？】 思います思います。難しいところに毎回その日本人に呼ばれる子がいるんですよ。だから、その子がなんか誇らしげに行くと思います多分。逆に新しい子でもし呼ばれたりすると、「うわ、頑張らないけんな」というプレッシャーというか、多分かかってるんだろうなとは思いますが。(H社⑩氏)

そして実習生たちが誇りややりがいを感じられるような仕事の質が実習生全員に伝播すれば、当然ながら受け入れ事業所にとって大きな戦力となる。

【責任が重い仕事を徐々に任せていくようにすると、本人たちもモチベーションが上がってって、トラブルを起こさなくなるようなことはある？】 はい、あると思います。それに、うちも人数が今造さんとかみたいに多いわけじゃないんで、1人だけができて、1人がもし休んだりすると

困るんですよ。なので、全員ができるようになってくれる方がいいんですよね。もう実習生全員ができるようになるように、うまい子に教えてもらって、うまい子と同じことができるようになってほしいというのは、うちも効率的に、その方がいい。(H社⑩氏)

ただ繰り返しになるが、こと溶接という仕事に関しては、いくら技術や質の高さを身に付けたとしても、それらがフィリピンで活かされる機会はあまりないようで、むしろ後段の「英語圏への移動希望」で言及するような、「日本で3年ないし5年働いたことがある」という「箔」としての機能の方が大きいかもしれない。

かえて、日本で学んだ、「綺麗な溶接やろう」と自慢する人が褒めてもらえんのじゃないんかね (H社⑨氏)。要らんもんなんかもしれん、そこまで。(H社⑩氏)

6. 「分からない」場合の振る舞い

では、実習生たちは仕事中にどう対応すればよいか分からない事柄に遭遇した際、どのような振る舞いを見せるだろうか。

もし分からないことがあったら、ちゃんと聞いてくる。「分かりません」とか「どういうことですか」とか。自分たちも一発で通じるとは思っていないので、聞いてもらえたらそこで詳しく教える。あとは先輩が後輩に教えたり。(B社②氏)

分からないことがあれば聞いてくる。分からないことがあれば聞けよと最初に言う。ほったらかしにしとったら大怪我するけん。(G社⑧氏)

主語が大きすぎるかもしれないが、私たち日本人の感覚からすると、このように「分からないのなら分からないと言う」「分からないことは誰かに聞く」という振る舞いが、一般的なもののように思われる。しかし、フィリピン人実習生にとっては必ずしもそうではない。

【「分かりました」ってすぐ言うか？】うちも一緒です。「分かったか」「はい」、分かっている(笑)。何度も何度もやらんしょうがないですよ。「分かりました」言うの、もう鵜呑みにはできません。そういう感覚でこっちは接するようにせんと、「はい、分かりました」をそのまま信用するわけにはいかん。(H社⑨氏)

【「分かりませんからもう1回教えてください」とは？】そう言うてくれりゃ助かるんですけどね。【それはほとんどない？】ないですね。(H社⑨氏)

【分からないことをきちんと聞くということを、年月が経つにつれ身に付けますか？】「分から

ない」いうのは、あんまり言うようにはならんですね。つい最近も、もう3年も4年も勤めとった子が、タンクの中ステンレスになってて「それを溶接する必要があったのだが」、「私、ステンレスできます、できます」[て言って]、とんでもないことをする（笑）。（H社⑨氏）

このように、実習生たちから発される「分かる」「できる」という言葉と仕事の結果との間に、大きな隔たりが生じることがある。仕事を任せる側からすると大いに戸惑うところだと思われるが、そこには彼我の文化の違い、あるいは「分かる」「できる」という言葉に対する考え方の違いが横たわっているのかもしれない。

「できます」って言う文化みたいなものがあるんかもしれんですね。自分の職を失われんようにとか、なんかそんな感じは伝わりますよ。来たばっかりの時。（H社⑩氏）

【溶接って、これぐらいの範囲の溶接仕事があるとしたら、彼らにしてみれば、その一部でもできる部分があれば「できる」んですね。】そうそう、そうだと思う。【だけど、我々からしてみると、最初に思い描いたこれぐらいの範囲を、ほんとにできるのかなって。】そう、80・90%くらいを求めているんですよ。（H社⑩氏）

では、その文化や考え方の違いを埋めてくれるものは何か。1つは、上記にもあったように「何度も何度もやらんしょうがない」という繰り返しのコミュニケーションである。もう1つは、人間を現場から不要にするほどの水準には達していないが、技術的に未熟な人間を早い段階で一応の戦力にしてくれるくらいには進歩した、道具や機械である。

ただ、3年も5年もしよると、もうかなり1人前になっとなりますから。【単純に分からないものは減っていくと。】ええ。このごろ道具も機械もようになったけんね。早い子は2、3ヶ月でまあまあできるようになりますよ。（H社⑨氏）

7. 工作中的コミュニケーションのずれ

いま繰り返しのコミュニケーションが重要であると言いたが、ただ繰り返すだけでは足りない。実習生に対する仕事のメッセージには、具体性や明確性が必要である。それらが欠けると、以下のようにコミュニケーションに齟齬が生まれる。そもそも、具体性や明確性に欠ける日本人からの仕事の指示が、実習生たちに「分かる」「できる」と言わせてしまっているという側面もあるのかもしれない。

日本人のあまりちゃんと「イエス・ノー」が言えないことがあるじゃないですか。でも、外国人って「イエス・ノー」を絶対言うじゃないですか。慣れてくると、そういうのを利用してくる

というか。「こいつがはっきり言わないから、僕はちゃんと仕事をできてない」とか。「それなりにやろう」って言ったらダメなんですよ。ちゃんと「ベストを尽くしてやれ」って言わないと伝わらない。だから、その揚げ足を取られて、「いや、こいつはそういう風に僕に言ったから、僕はそういう風にしただけだ」みたいな、言い訳を使ってくるっていうのも、何年もいる外国人はあります。【「俺がやった仕事がダメなんだったら、その時にダメってなぜはっきり言ってくれなかったんだ」ってことですか?】そうそう、曖昧に答える日本人が悪いっていうのもあります。(H 社⑩氏)

筆者はこの、具体性・明確性に欠ける仕事の指示に関して、以下のような質問をしてみたが、しかし実習生たちが不明点を聞き返してくれることを先に期待するのがそもそも筋違いなのだろう。それを期待するより先に、仕事の指示を出す側が上記のように具体的に明言するというのが、日本でも(フィリピン人に限らない)外国人労働者を雇用する現場ではスタンダードになっていくのだと思われる。

【「やれるか」「できます」っていうやり取りの中で、「今あなたは『やれるか』って俺に聞いてるけども、俺にどこまで要求してるんだ」てことを実習生から言い出すことはあるか?】ああ、言われてみればないかもしれない。【「だってあの時お前は言わなかったじゃないか」っていう風に、揚げ足を取ってくるのは仕方ないとしても、だったらもっと手前のところで、彼らなりにトラブルを回避するために、「そもそもどこまでのことを俺たちに要求してるんだ」って。】あー、言われたことないかもしれない。(H 社⑩氏)

8. フィリピン人実習生の増加による影響

「使用言語」の項で観たように、どの事業所も実習生の受け入れ人数が少なかった頃は、実習生たちは日本語を覚えざるを得なかったが、同国人の人数が増えてくると母国語でコミュニケーションが取れてしまうために、日本語能力が進歩しないとのことだった。この、「職場内に同国人が増える」ことで生じるもう1つの現象が、今回の聴き取り内容には見て取れた。

100人余って増えてこうした頃に、ぎょうさんいて、技能は見るけど、人間性まで分からんでね。クレーム言いだしたら、一緒におる3、4人が一緒になってクレーム言いだすとか、そういうことを聞き出したね。昔はなかった話やけど。(D 社⑤氏)

【仲間がいると、気が大きくなるというか。】業者の連中の中におったわ。「わしらおらんかったら仕事にならんからな」て言う外国人がおるっていう。3人に1人ぐらいいは外国人なんやけん、ほんなら、「わしらおらんかったら仕事ならへんから」ぐらいい。昔はそうなかったが、今は増えて

くるにつれて、そういう話をちょっと耳にしだした。(D 社⑤氏)

【数が増えてきて、「俺たちがいなければ仕事回らないだろ」という心持ちの子も見え始めた?】
僕も思いますね (G 社⑧氏)。うちはないっすね。よそを見てたらそういうふうに見えることもありますけど (F 社⑦氏)。

うちらの場合はもう完全になめ切って、「どうせ俺らがいないと農業回らないでしょ、困るでしょ」みたいなところもある。そうになると、ごっそり国を変えるっていうのもあると思うんですけど、うちの農家さんたちは1回ベトナムとかインドネシア行ったけど、やっぱりフィリピンに戻ってきてるってのがあって、「俺たちの方がいいでしょ」みたいな (笑)。(E 社⑥氏)

「自分たちがいなければ仕事が回らない」という考えを持ったフィリピン人実習生が出現しだしたことで、彼らの仕事にどのような影響が出ているのかということまでは今回の聴き取りで確認できなかったが、例えば仕事をサボりだす実習生が増えているといった話を聴くことは特になかった。彼らは出稼ぎに来ているのであり、働きが悪ければ資格が更新されないこともありうるので、そこまで露骨なことはできないと思われるが、集団心理への対応に頭を悩ませる事業所が今後増える可能性はあるだろう。

9. 企業への残留希望

実習生が3年(技能実習2号)または5年(3号)の実習を経験し、いったん帰国した後のキャリアの進路として、元の受け入れ事業所で再び働く(3号または特定技能)ことを選択するか否かは、元実習生にとってはもちろんのこと、その事業所にとっても大きな意味を持つ。

最初に受け入れた2人はもう5年目が終わる。この2人は特定技能としてB社に入社することが決まった。給料のことなども話して、「引き続き来てもらえますか」と打診したところ、「ぜひ働かせてください」と。第2陣の子たちにも同じように特定技能の打診をするつもり。本人たちにもその話をしている。本人たちも日本に残りたいと言っている。(B 社②氏)

【実習から特定技能、あるいは実習2号から3号に切り替える時、御社に残りたいという方は多いか?】フィリピンは多いですね (C 社④氏)。フィリピンはほとんど、9割ぐらいいるよね。フィリピンの方は体調に何か問題があったりとか、家族に会いたいからこれで終わりにしますという子以外は、大体、残りたいという意思が強いですね (C 社③氏)。

しかし、当然ではあるが、元の受け入れ事業所から離れることを選択する実習生もいる。そしてその理由は、金銭的条件、人間関係、都会と田舎の差などに集約できそうだ。またH社の聴き取り内容の最後の箇所からすると、最近の円安の進行(ペソ換算での収入の低下)が関係していることも明白

だろう（「来日目的」の項の最後で触れた、F社とG社の聴き取り内容からもそれは分かる）。

【実習生から特定技能として残ってくれた子は、まだ全員残っている？】いや、うちは辞めて日本のよその会社に行った特定技能の子がいますね。待遇いうよりかは、あの子と合わんとか、フィリピン人同士の人間関係。僕らには理由をそうやって言ってますけど、多分条件も良かったと思うんですけど。（F社⑦氏）

やっぱり、嫌な奴がおったら辞めるね。うちもF社さんとこと同じ理由で辞めて、それとあと、お金が全然違うけん。【高い所があると？】パツともう。日本人なんか比べ物にならんくらい早い。（G社⑧氏）

特定技能で、あっさり去られると寂しいが、本人たちからすると都会に出た方が最低賃金が高いのでいいとか、うちは松山だからまだいいけど、あまりにも田舎で実習をしていた子たちは、都会に出たいという想いはあると思う。（B社②氏）

【都会は疲れるから田舎、みたいな考えを持った子もいるか？】いない（G社⑧氏）。みんな「都会に」興味があるんじゃないですか（F社⑦氏）。

【3年終えて一旦帰国しても、3号とか特定技能として戻ってくる割合はどれくらい？】今までね、帰った子はほとんど戻ってきたんです。だけど、ここ1、2年間、よその国に引っ張られたりで、国内でもやっぱり関東の方が給料いいですからね。Facebookなんかでみんなやり取りして情報交換するんか、この頃はもうお金と相談なんでっていう。今回5人も6人も帰って、もう来ませんいうのは初めてなんです。新規で入れるかどうかの判断をするのに、1年ぐらい前からやり取りするんですけど、コロコロコロコロ変わるんですね（笑）。しまいには、給料ナンボにしてくれたら残るとかね。【そういうことをはっきりと口にするようになったのもここ1年くらい？】最近ですね。【コロナ前の2019年以前ぐらいだと、そういうことは明確に口にしなかった？】うん。（H社⑨氏）

実習生がそれでも元の受け入れ企業に残りたいと考える理由は、「（「都会と田舎の差」を別とすると）上記の離れる理由を裏返せば、金銭的条件や人間関係が悪くないからということになるだろう。ただ、「なぜ実習生たちが御社に残るのか、理由を確認したことはあるか？」と質問しても、意外と「確認したことがない」と返答する事業所が多かった。せいぜい以下のような返答があったくらいである。

【長年御社で働いてる方もいるので、何が彼らにそう思わせてるのか？】居心地がいいというのはあるかもわからんですね。（H社⑨氏）

確かに、その「居心地の良さ」を醸成するために、どの事業所も腐心していた。例えば住環境なら、

C社のように実習生の寮は完全個室で、エアコンやWifiも完備、共有部分の清掃も業者が入って実習生が行う必要はないというように、快適な環境を整えている事業所もあった。他にも、個室ではないが実習生のために寮を新たに建てたり、一軒家を借り上げて寮代わりとしたり、アパートを1棟借り上げて寮代わりとし、事業所が雇用した通訳と一緒に住まわせたりするなど、各事業所とも工夫をしていた。他にも下記の聴き取り内容のように、実習生が正直に出してくる要望にできるだけ応えようとする事業所もあった。

【自分の権利を主張したりアピールしたりすることはあるか？】仕事の中ではあまりない。ただ、給料のこととか、そういう部分での自分の希望とか、住まいの環境に関してとか、希望・要望はある。「できたらこれを会社で買ってほしい」とか。「これが壊れて困っている」とか。そういうことはちゃんと言ってくる。和式トイレはフィリピンにはないので使えないとか。だから洋式風に変えた。(B社②氏)

【田舎だからとか地方だからという理由を持ち出して、都会に行きたいと言い出す子はいるか？】不満はあると思いますね。買い物1つ、やっぱり、うちも月に1回か2回、向こうが何人かまとまって要望してきたら、送迎の車出して買い物連れていくんですよ。それも、特定1号とか2号できて、それからなんですけど、それまではしよらんかった。せんかったらやっぱりもう、買い物1つでも困るとか、どこの業者さんでも言いよるよね(G社⑧氏)。やってなかったらやっぱりもう、ここで辞めますとか、特定技能までたどり着かんじゃないけど、そこらも含めてケアが大事ななんか思いますね(F社⑦氏)。

10. 帰国後のこと

実習生が日本での実習を終えて帰国するとキャリア選択に直面するが、その選択肢としては、フィリピンに残って働くか、あるいは日本を含めた外国にまた移動するかということになる。またフィリピンに残って働くにしても、実習を受けた仕事と同種の仕事に就くか否かという選択もある。しかし、彼らは元々フィリピンでは満足する仕事に就けないという理由で来日したのであり、数年経って帰国してもその状況が劇的に改善しているわけでもない。そのことが、彼らを再移動へと促す要因の1つとなるのだろう。下記C社の聴き取り内容に出てくる船員という仕事にしても、フィリピンに残らず世界中の海上に出ていく仕事である。

まずね、帰って溶接職に就かないんですよ。△□造船のセブにしても、日本円に換算すると月給3万円から4万円なんです。で、他の職も多分大して変わりはない。で、技術があるからないから言って、3、4万円だとそこへ行かんのじゃないですかね。(H社⑨氏)

全員じゃないけれども、定期的に収入がある生活を3年間やっちゃうと、自営で農業をやるっ

というモチベーションが、どこまでかなっていう。台風が来たら1週間居座るんですよ。で、畑が流れちゃったとか、車、流れて、借金生活になったとかないと、あんな定期的にお金が入ってくる、雇われる生活って素晴らしいって言って、日本に帰ってきたいですっていうのはしょっちゅう来る。(E社⑥氏)

【実習生は、日本人が取るような資格を実習生の間に取ることは可能か?】実習生の段階ごとで受けないといけない試験とは別で、NK〔日本海事協会〕ていうのがあるんですけど、その試験を受けたりとかはあります。船に携わる仕事をするのであれば持つといってくださいって求められることになるので。うちは日本人と一緒に受けていただく。NKの資格っていうのでそれなりに、日本ではあまり効果ないんですけど、例えばフィリピンの方々、母国に帰って船員になりたいってなった時に、船の溶接の資格になるので、持っていると就職に便利だていうので、取って帰りたいっていうのはあります。(C社③氏)

11. 英語圏諸国への移動希望

再来日を選択しない場合、フィリピン人元実習生の次なる大きな希望としては、英語圏の国に移動することが挙げられる。このことは、ほぼすべての聴き取り対象から確認できた。

フィリピンは英語圏なんで、日本も1つの国って感じだと思う。他の国も色々ある選択肢の中の1つだし。昔よく聞いてたのは、日本に行って、その後ニュージーランドとかオーストラリアとかカナダとか、ちょっとハードルの高い国ですけど、日本よりも給料もらえるし、永住権もらえるのも早いし、家族も呼べるし、移住を受け入れてる国に行く時の前段階として、日本で実習受けて、それで少し箔を付けて。日本って厳しいというか、品質とかしっかりしてるし、そういう所でしっかり3年間働いた、実習を受けたってことで、採用してもらえっていうようなことは聞いたことがある。実際にニュージーランドの牧場からも、実習を終えたうちの卒業生を採用して、多分その子の人脈で、同じうちの元実習生たちがその牧場に何人か行ったんやと思うんですけど、牧場の方から直接連絡があって、非常にいい子がうちへ来てくれるんで、よかったらまたうちの牧場をPRしてくださいって、1回ニュージーランドの人と面談したことがあります。(A社①氏)

ただ、フィリピン人から見て日本がまったく不人気というわけではなく、他国と比較した場合に日本の方が好まれる場合もあるが、とはいえ英語圏より上位になることはないようだ。また英語圏諸国がフィリピン人に好まれる理由として、家族を帯同できることがよく挙げられるが、それはE社の聴き取り内容にもあるように、家族の適応のしやすさも含めてのことである。日本が今後、家族帯同を認める方向を打ち出していくとしても、その家族が日本語の習得しづらさを理由として日本社会への

適応に困難を抱えるとしたら、日本を選好するフィリピン人はそれほどには増えない可能性もある。

UAE にいた子がいたりとか、サウジにいた子とか。そこを経由して次どこにしようかって考えた時に日本っていう子もいましたし (C 社③氏)。でもみんな言いますよ。日本がいい、UAE とサウジぐらいはすごく本当、厳しかったなあって (C 社④氏)。日本で技能実習をして、その経験とか証明書を持って、オーストラリアだったり、カナダだったり英語圏で、自分にとって生活しやすい所にステップアップを考えているとかいうこと (C 社③氏)。

元実習生がカナダ行ったりニュージー行ったり。今もう向こうに住んで何年ですか言っ。日本は家族帯同難しいので、カナダにいますとか。ニュージーにいますとか。結構フィリピン人コミュニティがあるのと、英語が通じるので、奥さんでも割と苦なく、すぐに生活できると。で、子供も、家庭内で一生懸命英語教えてあげれば、地元の学校に入れるので、多分その辺が行きやすいんじゃないですかね。日本は日本語ができなかったら、奥さん孤独になっちゃいます。(E 社⑥氏)

12. 金銭感覚

「来日目的」の項でも書いたが、フィリピン人実習生の目的は家族を養うことであるので、できるだけの金額を母国への仕送りに充てるために、基本的には節約をしようとする。

あの子らはお金大事にするけん。自転車をこいで今治のディオまで自転車で2時間かけて買いものに行ったりするんですよ。それでお米積んで帰ってきたりとか。「船で行ったら？」と言ったら、船は片道1,000円かかるから高いんだと。(C 社③氏)

本当に質素な生活しよるよ。冬場でもつつかけで。それで、年上の島の人やけど、ジャージとか、わしが着んようになった服とか、柄とかそんな合わんで、合わんけど持ってきよったら、みんな「要る」と言って取ったがいうて、そういう人もおるわけよ。地域の人が心配。お前さんも「寒うない」て言うけど、そんなことなかろうって。聞いたら、「大丈夫、しょうがない」言いよるけど、「お前、俺の服着るか」渡したら、みんな持って帰ったから。みんな買いたいんやけど、買うの辛抱してあれしよる。(D 社⑤氏)

おそらくはその節約の一環なのだと思うれるが、下記のように元々畑ではなかった所を畑にしてしまうこともあるようだ。E 社が受け入れている実習生の住居を案内していただいた際も、庭先で数種類の野菜を作っていることを確認できた。

4月だったらまた植えられるからね。野菜作れるから (C 社④氏)。野菜ね。ほぼ植えよるね。

寮の周りが少しずつ開拓されて、畑になっていったみたいな（C社③氏）。畑を使ってこうやっていろんな。キュウリとか。カボチャとかね（C社④氏）。「ここ植えていいですか」って、「いいよ」って言ったら、もうどんどん変わっとるもんね（C社③氏）。そう。コーナンで苗買って（C社④氏）。伝統よね。多分ね。先輩からの伝統で（C社③氏）。

そうやって節約をする一方で、下記のように派手にお金を使う側面もフィリピン人実習生は併せ持っている。矛盾しているようだが、「貯金する文化がないと思うんですよね（F社⑦氏）。なんぼか毎月送る額は決めとって、あと自分で使う分はね、思い切り（G社⑧氏）」というように、現在の家族と自分のために使うことができれば良いのであって、将来への備えという考えは薄いのかもしれない。

財布の紐は固いが、iPhoneとかどうしても欲しい物は買っている。あとネックレスとかでもシルバーではなく絶対に金を買う。換金できるので。金の相場も見ている。困った時に売ればという考えがあるのだと思う。それがたとえ5万10万する物だとしても、換金できると思って買っている。（B社②氏）

スニーカーにしても服にしても、皆おしゃれ。母国では買えない物がこちらでは買えるので。エアジョーダンとか、すごく喜んで買っていた。（B社②氏）

ええもんやっとるよね。みんなね。ジムソンとかネルマールとか（C社③氏）。そうね。こんな感じのバイク（C社④氏）。本当にロードバイクやもんね（C社③氏）。【使うところは使っているということですか？】そうですね（C社③氏）。

【何に今、お金使っちゃってるとかありますか？】大好きなのが靴、ジープ、ジージャン、時計。革ジャン大好き。それが中古屋さんを巡って、革ジャンを買ったり、帽子買ったり、サングラス買ったり、時計買ったり、白いピッカピカの靴を履いて帰るんですけど、「え？」みたいな。（E社⑥氏）

13. 飲食習慣と健康

これもどの事業所からも確認できたことだが、フィリピン人は集まって陽気に騒ぐことが好きである。それに合わせてアルコールも好きであることが多い。そしてそれらが重なって、羽目を外してしまうこともあるようだ。

フィリピンはパーティが好きなんで。みんな集まるのが好きなんで。誕生日会とか、色んな何とかの会とかね。結構します。みんなほとんど毎週、休みの日にバーベキューしながら（C社④氏）。【フィリピンの方は何のお酒が好き？】ビールですよ（C社④氏）。みんなビールは好きだね（C社③氏）。

お酒は大好きなのですごよく飲む。日本のビールは美味しい、発泡酒でも十分美味しいと言っている。お酒を飲むことが贅沢なことは分かっているけど。(B社②氏)

飲み出したら、日本人ってだいたい2時間で宴会終わらすじゃないですか。それを「なんで2時間だけ？これからじゃない。夜はまだ若い」とか言って、翌日の昼まで飲む。そんな正体不明になるまで飲むのは体に悪いし、「仕事のある日の前日に飲むのやめなさい」で言っても聞かさない。飲みだしたらもう楽しいことだけ一みたいになるので。(E社⑥氏)

こういった飲酒の仕方や習慣も明らかに関係していると思われることだが、フィリピン人実習生（特に男性）は、飲食習慣に起因する健康不良を抱えていることが多く、しかもそのことに無頓着であることも多い。ただ、このことが実習にどの程度影響を及ぼしているのか（例えば病欠が多いなど）に関しては情報が得られていない。

来る以前の健康診断で、何が悪いんかよう分からんけど、肝臓の数値の悪い子が多いよね。それで入国止めた人間もおるんやけん。[採用が] 決まっとって、健康診断でちょっとこれアウトやねというのは止めて。(D社⑤氏)

生まれ育ちがそもそも肝臓にいいものを食べてない。食育がまずないです。向こうで野菜タダなんですよ、自分らが「農業をして」作ってるから。[フィリピンでは] 野菜はタダなのに、日本来たら野菜を買わなきゃいけない、高いって。農家さんから余った物とかもらっても、積極的に食べないですよ。「野菜食べなさい」で言っても、「今、肉を3年間食べ貯めしてるんだ。向こう行ったら肉が高くて買えないから」で言うんですけど、ダメだって、健康に悪いからって。結構50代とかで突然亡くなったりするんですよ。お酒の飲み方も無茶なんですね。ジン、ストレートで、何かで割るとかしないし。冷蔵庫もあんまないのだから氷で割るとかもしないし。ライムのあるじゃないですか、極彩色の色の着いた甘いやつで、それをジンとかそういうのと混ぜて、それを直にショットで飲むみたいな感じなんで。肝臓にも胃にも悪そうな飲み方をするんですよ。(E社⑥氏)

まあ女の子はね、全然心配してないですよ。大体みんなちゃんと野菜食べるので。男の子は、まあいうこと聞かん。飲み方雑だし。こっちから向こう帰った子でも、「飲んでまーす！」みたいな投稿を出したりとか。あとね、健康診断毎年受けさせてますけど、大体肝臓で引っかかってます。再検査って言っても、再検査行かなかったりとか。(E社⑥氏)

【肝臓の数値が良くない、健康状態がそんなにいいわけではないと聞きますが。】 ええ、なんぼかありますね。脂っこいもんというのは肝臓に悪いんですかね。とにかくしつこいような。【食事の時も、コーラをガブガブ飲むだとか。】 そうそう。【日本に来たから改まるって人はあまりいないですか。】 それはあんま聞かんですね。よくあの、バーベキューなんかする時に、コーラを3本も

5本も買うて持ってっちゃん（笑）。(H社⑨氏)

14. フィリピン人ネットワーク

「フィリピン人実習生の増加による影響」の項でも触れたように、1つの事業所の中にフィリピン人が増加することで起きる現象というものがあつた。しかし単に1つの事業所の中だけでなく、近隣の事業所にも、そしてネットを通してより広い範囲まで、フィリピン人ネットワークは広がっている。

●▲造船さんにもフィリピンの方いらっしゃるし、バスケット一緒にしたり、交流があるんで(C社③氏)。中学校の体育館で。●▲造船の職員さんが予約してくれて。●▲造船やら■◆造船やうちの造船社員でバスケしよったんやけど(C社④氏)。

【コロナ前に、彼らはフィリピン人コミュニティに参加していたのか?】あります。松山にいるフィリピン人とパーティをしたりとか、こちらに来てから知り合ったフィリピン人もいるし、たくさん知り合いはできていると思う。きっかけはFacebookを活用しているようだ。(B社②氏)

そしてこのネットワークを介した情報交換によって、実習生や特定技能者たちは自分にとって必要な情報を入手し、実習生はいきなり職場を変えることはできないものの、実習終了後に残留するか否かの判断材料として用いることもあるのだろう。また特定技能者の場合は受け入れ企業との条件交渉に用いたり、場合によっては「企業への残留希望」の項でG社が言っていたように、「日本人など比べ物にならないくらい早く」他社へ移っていくのだろう。

【フィリピン人ネットワークで得た情報を基に、別の会社の情報を持ち出して比較することはあるか?】あります。コミュニティ広いですよ、やっぱり(C社③氏)。早いです、情報(C社④氏)。フィリピンの子だとFacebookよね(C社③氏)。そう。Facebookはすごいですよ(C社④氏)。もともとと同じ実習生だったとか、よそで実習してて、同じタイミングで同じ送り出し機関にいたとか、一緒に勉強したとかっていう子が、ずっとつながってる状態。その子が投稿すると、そっからばあっと、友達の友達みたいな。どんどん広がっていくので、色んな所の情報を集めようと思ったら、多分1時間もしないうちに、東北の方とかの情報でもどんどん入ってきます(C社③氏)。

どこにもフィリピンがいるんで、どっかの話が出たら、もうそこに全部つながるっていう。近隣、本当に〇〇[地域名]までのフィリピンの子だったら、全部つながりますね(C社③氏)。特にお金のこと言うよね(C社④氏)。お金は早いよね。給料変わったら多分、翌日にはもう散らばってるもんね。みんなに言われんよって言ってもね、知つとるもんね(C社③氏)。

おわりに

今回、フィリピン人受け入れ事業所への聴き取りデータを基にして、フィリピン人技能実習生や特定技能者の特徴を整理した。しかし、もちろんこれらを一般化することはできない。監理団体2社を除く6事業所は、業種も異なれば実習生受け入れ人数の規模も異なる。2社の監理団体にしても、実習生を受け入れることを想定しているメインの業種が異なる。そのように諸々の条件が異なる事業所・団体から聴き取った情報を基にしているため、今回整理したフィリピン人技能実習生や特定技能者の特徴は、あくまで参考程度のものである。また、ベトナム人実習生やインドネシア人実習生など、他国の実習生とも比較してみなくては、国籍別の特徴を明らかにすることはできないだろう。それらが今後の課題として残されている。

文献

大久保元正、2024、「フィリピン共和国からの移住労働の背景事情について」、『人間文化研究所紀要』29：93-100。